

虚空蔵横穴群発掘調査報告書
(市道赤土高橋線築造工事に伴う発掘調査)

平成26年度

2014年
菊川市教育委員会

虚空蔵横穴群発掘調査報告書
(市道赤土高橋線築造工事に伴う発掘調査)

平成26年度

2014年
菊川市教育委員会

例 言

1 本書は、菊川市建設課による市道赤土高橋線築造工事に伴い平成25年8月21日から10月3日にかけて現地調査を実施した、虚空蔵横穴群発掘調査における調査成果をまとめたものである。

2 本書の作成は、菊川市教育委員会社会教育課が行った。

3 調査の体制は次のとおりである。

平成25年度

菊川市教育委員会

教 育 長

石 原 潔

教育文化部長

栗 田 正 弘

社会教育課長

竹 田 安 寛

文化振興係長

齋 藤 政 巳

文化振興係（指導主事）

蔵 本 俊 明

文化振興係主査（埋蔵文化財）

高 木 淳

平成26年度

菊川市教育委員会

教 育 長

石 原 潔

教育文化部長

栗 田 正 弘

社会教育課長

竹 田 安 寛

文化振興係長

齋 藤 政 巳

文化振興係（指導主事）

蔵 本 俊 明

文化振興係主査（埋蔵文化財）

高 木 淳

現地作業員

松下 一男、大石 和男、福井 登志男、山本 昌弘、渡邊 四郎、内田 敏彦

整理作業員

タマン谷 純子、大川 友子、小林 里枝、松永 綾、林 早苗

※順不同、敬称略

測量及び空中写真撮影

株式会社 フジヤマ

4 本書の編集は高木が行った。

5 本書に収録した実測図・写真及び出土遺物は、すべて菊川市教育委員会が保管している。

目次

I	遺跡の状況	1
	1 遺跡の位置と環境	1
II	調査の概要	3
	1 調査に至る経緯	3
	2 調査の方法	3
III	調査の成果	4
	1 1号墳	4
	2 2号墳	4
IV	まとめ	4

挿図目次

第1図	発掘調査位置図	1
第2図	周辺遺跡図	2
第3図	1号墳 調査前測量図	5
第4図	1号墳 実測図	5
第5図	2号墳 調査前測量図	6
第6図	2号墳 実測図	6

挿表目次

第1表	周辺遺跡一覧表	2
-----	---------	---

図版目次

図版1	遺跡遠景(調査後)	1
	完掘状況	1
図版2	1号墳(調査前)	2
	1号墳(調査後)	2
図版3	1号墳主体部状遺構 検出	3
	1号墳主体部状遺構 完掘	3
図版4	2号墳(調査前)	4
	2号墳(調査後)	4

I 遺跡の状況

1 遺跡の位置と環境

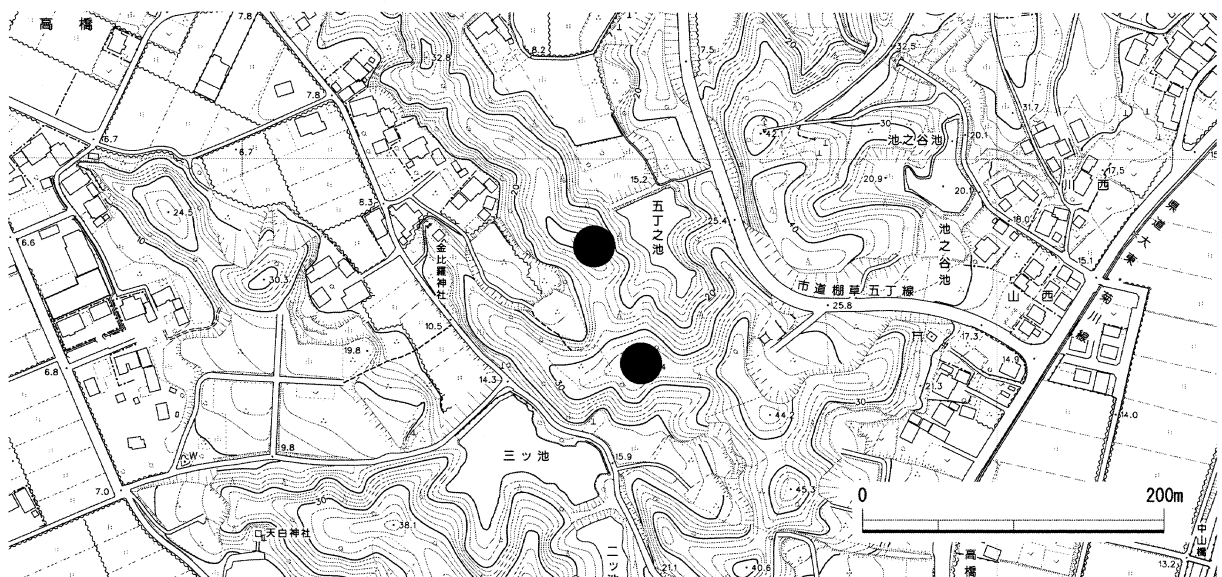
虚空蔵横穴群は菊川市南部の高橋地区の牧之原台地から延びる丘陵に展開している。虚空蔵の地名の由来とされるのが丘陵の突端にある虚空蔵山福蔵院で、行基作とのいわれがある虚空蔵菩薩像が奉られている。虚空蔵山で毎年2月に行われる節分祭は菊川市の無形民俗文化財に指定されている。

当横穴群は虚空蔵堂横穴群、池ヶ谷横穴群、虚空蔵横穴群及び三ツ池横穴群の四群から構成されており、その内の池ヶ谷横穴群は昭和58年度の調査において、7世紀後半から末にかけて造られた3基で一群をなす小群であることが報告されている。また、今回の発掘調査に先立って実施した踏査において墳丘状の盛り上がりが複数確認されており、尾根上に古墳群が形成されていると考えられる。

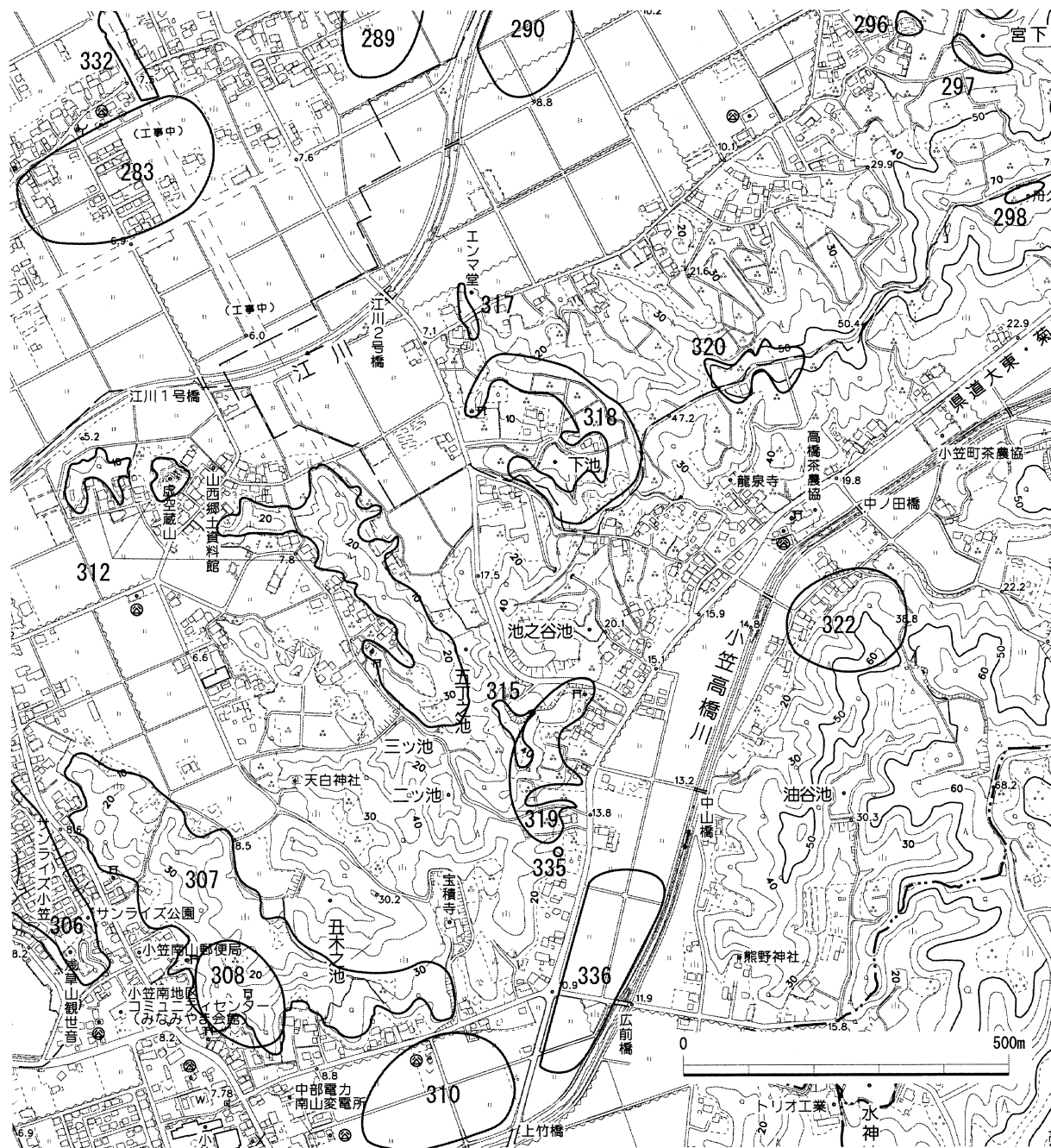
周辺の丘陵にも古墳群や横穴群が分布している。周辺で最大の墳墓は静岡県指定史跡である舟久保古墳で、全長約49mの前方後円墳であるが、後世の開発により前方部が削平され、現在残るのは直径約26mの後円部のみである。昭和50年度の静岡大学による確認調査では、幅6mの周溝も確認されている。菊川流域には前方後円墳が少なく、同時期にほぼ1基しか造られないため、前方後円墳＝流域の首長墓と考えられているが、舟久保古墳は5世紀初め頃の築造とされている。また、舟久保古墳から500mほど西の尾根上に築かれた寺の谷古墳群からは菊川流域では出土例の少ない埴輪が発見され、とくに3号墳からは鳥や馬などの形象埴輪の一部が出土している。

丘陵の北側の平野部では、平成17年度にアパート建設に伴う菊川市教育委員会による赤土政所遺跡の発掘調査で古墳時代の溝や中世の井戸などが検出され、古くから居住域であったことを示している。また、県道掛川浜岡線バイパス工事に伴い平成21年度から平成24年度にかけて実施された旧(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所及び静岡県埋蔵文化財センターによる一反田遺跡、赤土政所遺跡の調査では奈良～平安時代の掘立柱建物や中世の屋敷跡などが見つかり、周辺地域の中心であった可能性が指摘されている。

丘陵南側の平地では高橋川沿いにある高橋遺跡が古くから知られているが、本格的な調査は実施されていない。また、平成24年度に静岡県教育委員会が実施した試掘調査で中山遺跡、池之谷遺跡が新たに発見され、今後も開発に先立っての発掘調査が計画されている。



第1図 調査位置図



第2図 周辺遺跡図

遺跡番号	種別	遺跡名	遺跡番号	種別	遺跡名	遺跡番号	種別	遺跡名
283	散布地	赤土政所遺跡	307	散布地	南山遺跡群	319	横穴墓	池之谷横穴群
289	散布地	赤土四反田遺跡	308	城館跡	高橋城跡	320	古墳	寺の谷古墳群
290	集落跡	八丁遺跡	310	散布地	高橋遺跡	322	散布地	糯田遺跡群
296	その他の墓	作兵衛屋敷墓地遺跡	312	横穴墓	虚空蔵横穴群	332	散布地	一反田遺跡
297	横穴墓	宮下横穴群	315	古墳	三ツ池古墳群	335	散布地	池之谷遺跡
298	古墳	舟久保古墳	317	横穴墓	地藏堂横穴群	336	散布地	中山遺跡
306	散布地	前岡横穴群	318	横穴墓	寺の谷横穴群			

第1表 周辺遺跡一覧表

Ⅱ 調査の概要

1 調査に至る経緯

菊川市役所建設経済部建設課（以下建設課）では、県道掛川浜岡線のバイパスとなる市道赤土高橋線の整備を進めている。その中で、菊川市教育委員会社会教育課（以下社会教育課）に施工範囲内の埋蔵文化財の有無を照会したところ、一部が虚空蔵横穴群や池之谷横穴群の範囲内に含まれることが判明した。しかし、施工範囲内の尾根上での古墳の有無や横穴の分布状況が不明なため、確認調査を実施し、遺構の有無を確認した後に調査費用や調査期間等について協議することとなった。

確認調査は平成25年3月7日から14日にかけて実施し、古墳の想定される丘陵頂部でトレンチを設定したところ、虚空蔵横穴群の範囲内で主体部状の遺構や墳丘部の削り出しと考えられる落ち込みが2地点で確認されたため、遺構を確認した順に南を1号墳、北を2号墳とした。また、この確認調査に伴う踏査で、施工範囲外となる2号墳からさらに北の尾根上にも古墳とみられる複数の盛り上がりを確認した。

この確認調査の結果を受け、建設課は施工前に本発掘調査を実施することを決定し、社会教育課と協議し、平成25年度に現地調査、平成26年度に報告書作成を実施することで協定書を締結した。また、調査に係る費用については開発者である建設課の予算で負担し、発注や契約に関する事務については社会教育課が執行することとした。

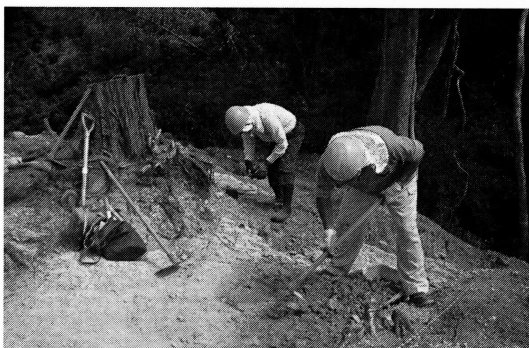
事務文書

平成25年8月15日	菊教社第221号	土木工事等に係る埋蔵文化財発掘の通知（進達・副申）
平成25年10月7日	菊教社第290号	虚空蔵横穴群発掘調査結果概要
平成25年10月7日	菊教社第291号	埋蔵物の保管証
平成25年10月7日	菊教社第292号	埋蔵物の発見届

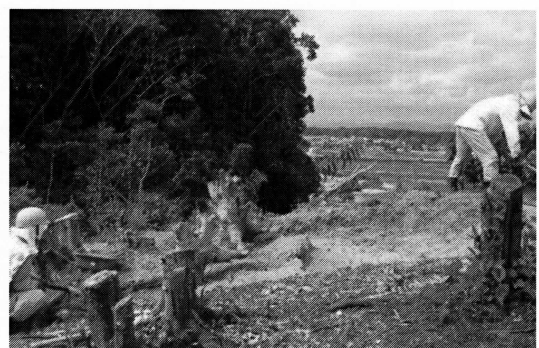
2 調査の方法

調査にあたり、計画範囲内に世界測地系に基づいた4級基準点を4点設置した。そのうち2号墳付近に設定した基準杭4K4の座標は、世界測地系で $X = 145555.344$ 、 $Y = 36276.132$ 、標高27.471mで、1号墳付近に設定したBM1の標高は37.468mである。

発掘作業は、調査区域の草木を刈り込んで地表面をあらわにした後に、調査前の地形測量を行った。その後、人力で表土を除去して土層断面を確認し、地山面を精査して墳丘の形状や主体部の有無を確認した。主体部やその周辺とみられる箇所については排土を土のう袋に集め、ふるいにかけて遺物の有無を確認した。掘削作業が完了した後に、空中写真測量及び撮影を実施し、現地作業を完了した。



作業風景（1号墳）



作業風景（2号墳）

Ⅲ 調査の成果

1 1号墳

1号墳は推定径約15mの円墳で、墳丘部の西側2分の1ほどは今回の開発の用地外となっている。表土は5cmほどの厚さで、その下に地山の礫が混ざった層が10～50cmほどみられる。地山は軟質の砂岩と泥岩が互層となっており、南西方向にやや傾いている。

明確な埋葬施設は確認されなかったが、墳丘頂部で東西方向に伸びる幅45cm、長さ80cmの主体部状の遺構を一部検出した。遺構の西側は調査区の範囲外となる。遺構内の覆土は土のう袋に集めて持ち帰り、ふるいにかけて微細遺物の有無を確認したが、遺物は検出されなかった。遺物は墳丘全体からも出土しなかった。

墳丘の南面では標高35.0m付近で墳丘の削り出しとみられる落込みが確認されたが、東面及び北面は傾斜が急角度になっており、がけ崩れ等により本来の地形が失われている可能性が高い。

2 2号墳

2号墳は推定径約12mの円墳で、墳丘部の西側4分の1ほどは今回の開発の用地外となっている。表土は5cmほどの厚さで、その下に地山の礫が混ざった層が10～50cmほどみられる。地山は部分的に砂層が入る軟質の砂岩と泥岩の互層となっており、全体が北西方向に傾斜している。

確認調査では丘陵頂上部の東側で主体部状の落込みが確認されたが、実際に掘削したところ遺構とは認められず、遺物も出土しなかった。墳丘全体では表土中より土師器の小片1点が出土した。

Ⅳ まとめ

今回調査した2基の古墳からは土師器の小片1点出土したのみであり、埋葬施設も主体部状の遺構の一部しか検出していないため、遺物や遺構の状況から被葬者の階級や性格、古墳の築造年代を特定するのは困難である。しかし、菊川流域では6世紀後半には初期の横穴群が出現し、古墳から横穴へ移行していくことから考えて、6世紀代までの築造とみていいだろう。

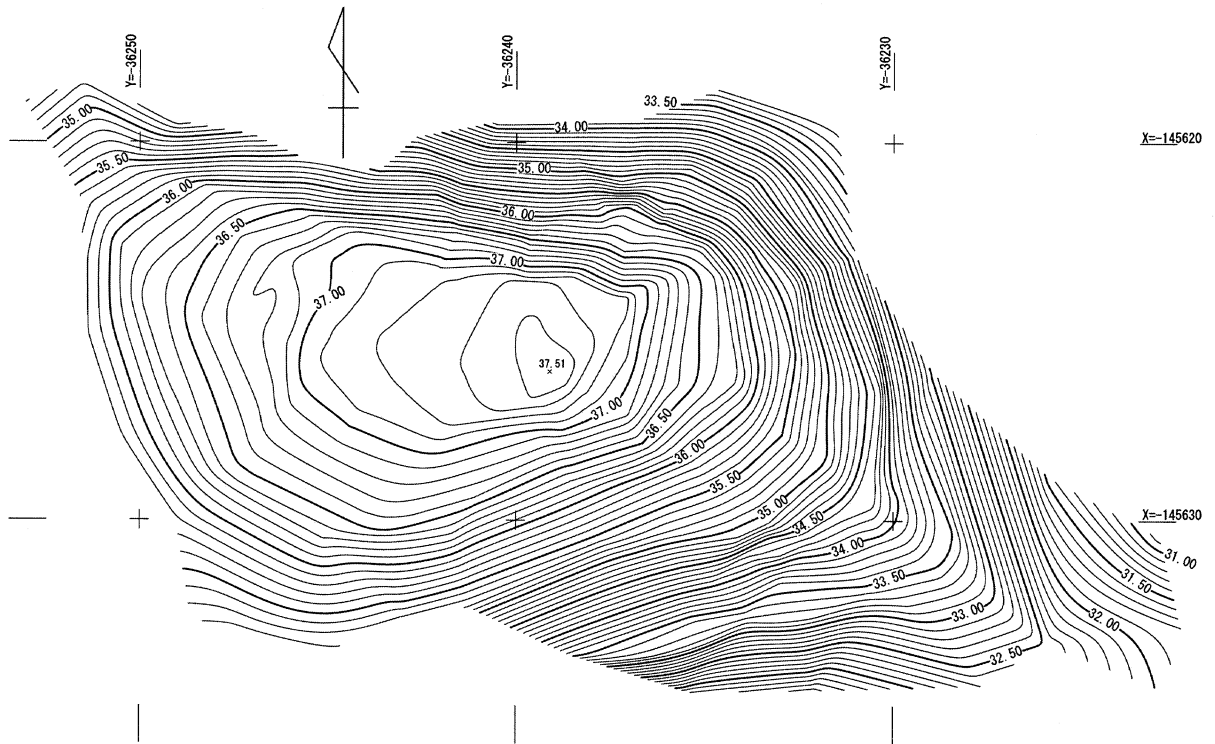
また、被葬者が治めていた地域については、丘陵の西側の現在の山西地区付近、あるいは丘陵東側の現在の五丁池北側の平地が考えられる。虚空蔵横穴群を形成する横穴の方向からみても、丘陵西側が居住域と考えるのが順当であるが、今回調査した古墳と横穴群とはやや離れており、古墳から横穴への連続性に多少の疑問が生じるところではある。しかしながら、丘陵の東西いずれの平地も本格的な発掘調査が実施されたことはなく、古墳と同時期の居住域の有無も不明であるため、今後の調査に期待したい。

なお、文末ではありますが、今回の発掘調査にあたっては、静岡県教育委員会文化財保護課及び菊川市建設経済部建設課に多大なるご協力をいただいたことを厚く御礼申し上げます。また、連日の猛暑の中での作業に従事していただいた作業員の皆さんに対しても深く感謝いたします。

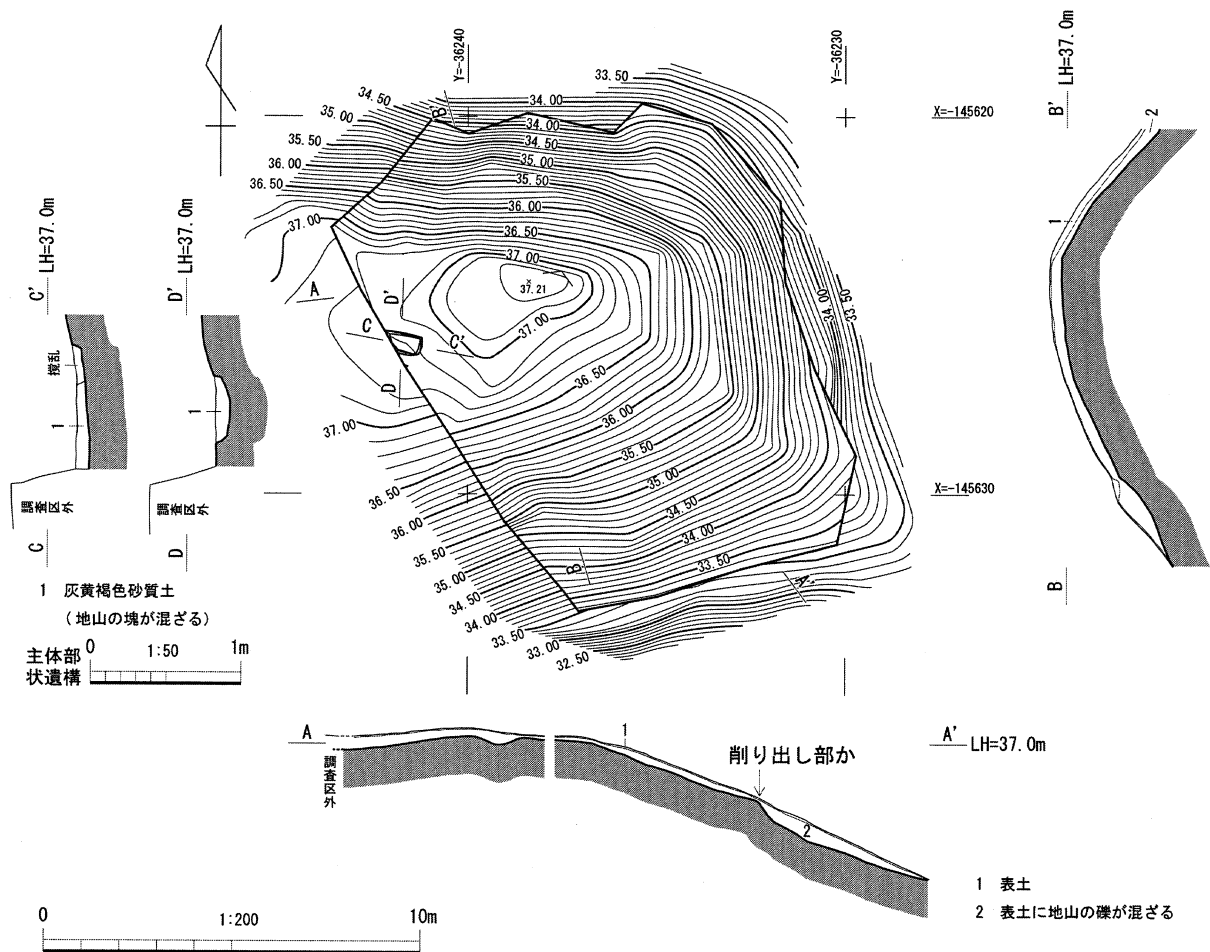
参考文献

小笠町教育委員会、1984：「池ヶ谷横穴群発掘調査報告書」

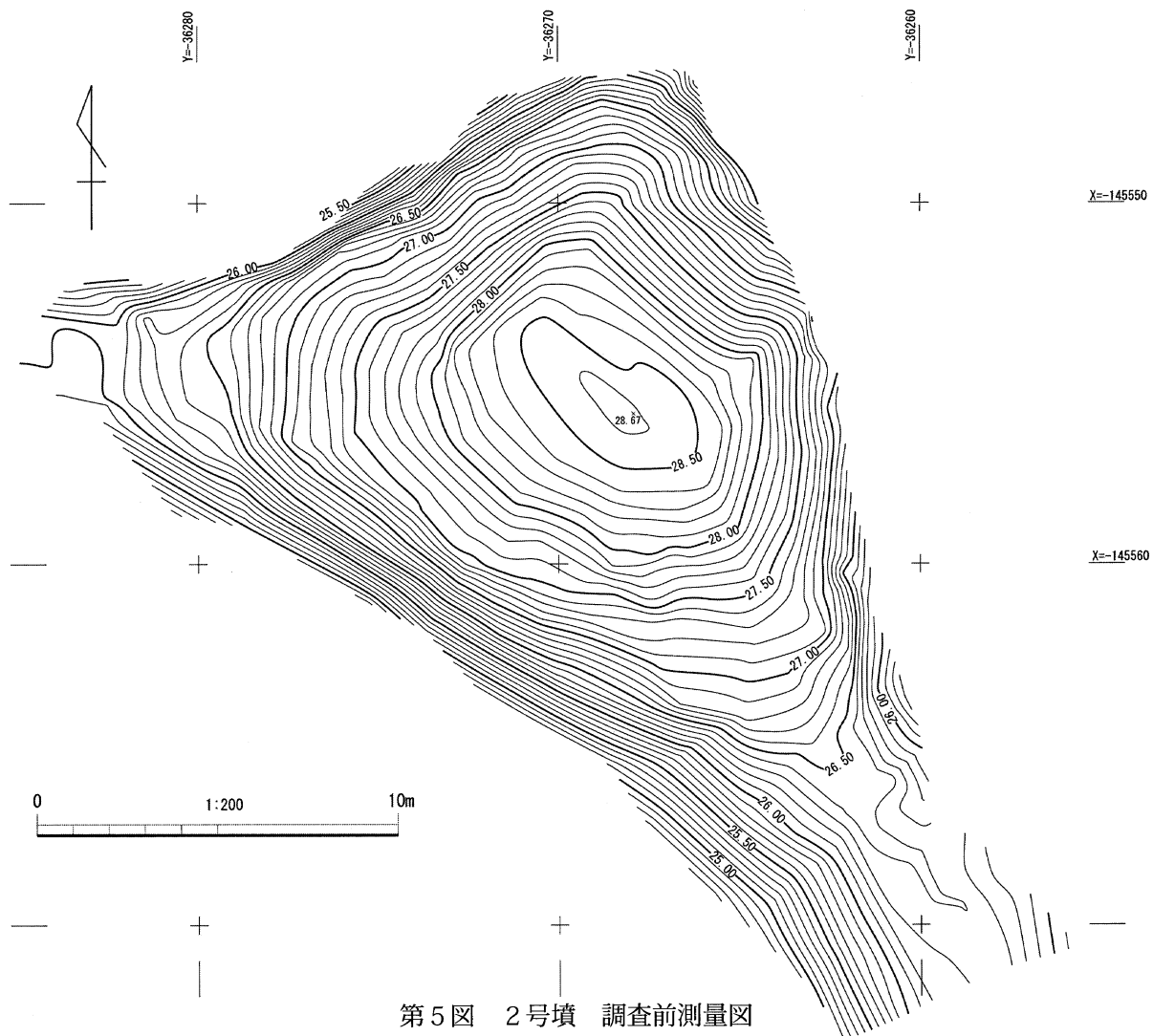
財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所、2009：「菊川市下平川の遺跡群」『静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告書 第204集』



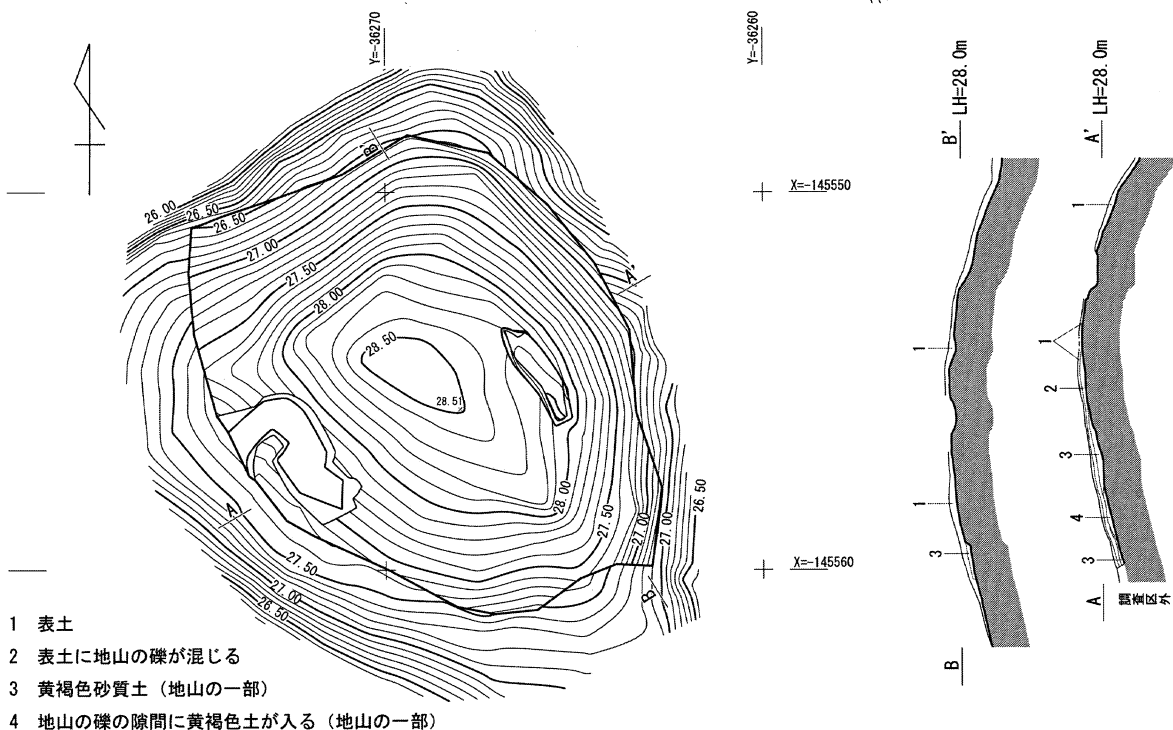
第3図 1号墳 調査前測量図



第4図 1号墳 実測図



第5図 2号墳 調査前測量図



- 1 表土
- 2 表土に地山の礫が混じる
- 3 黄褐色砂質土（地山の一部）
- 4 地山の礫の隙間に黄褐色土が入る（地山の一部）

第6図 2号墳 実測図

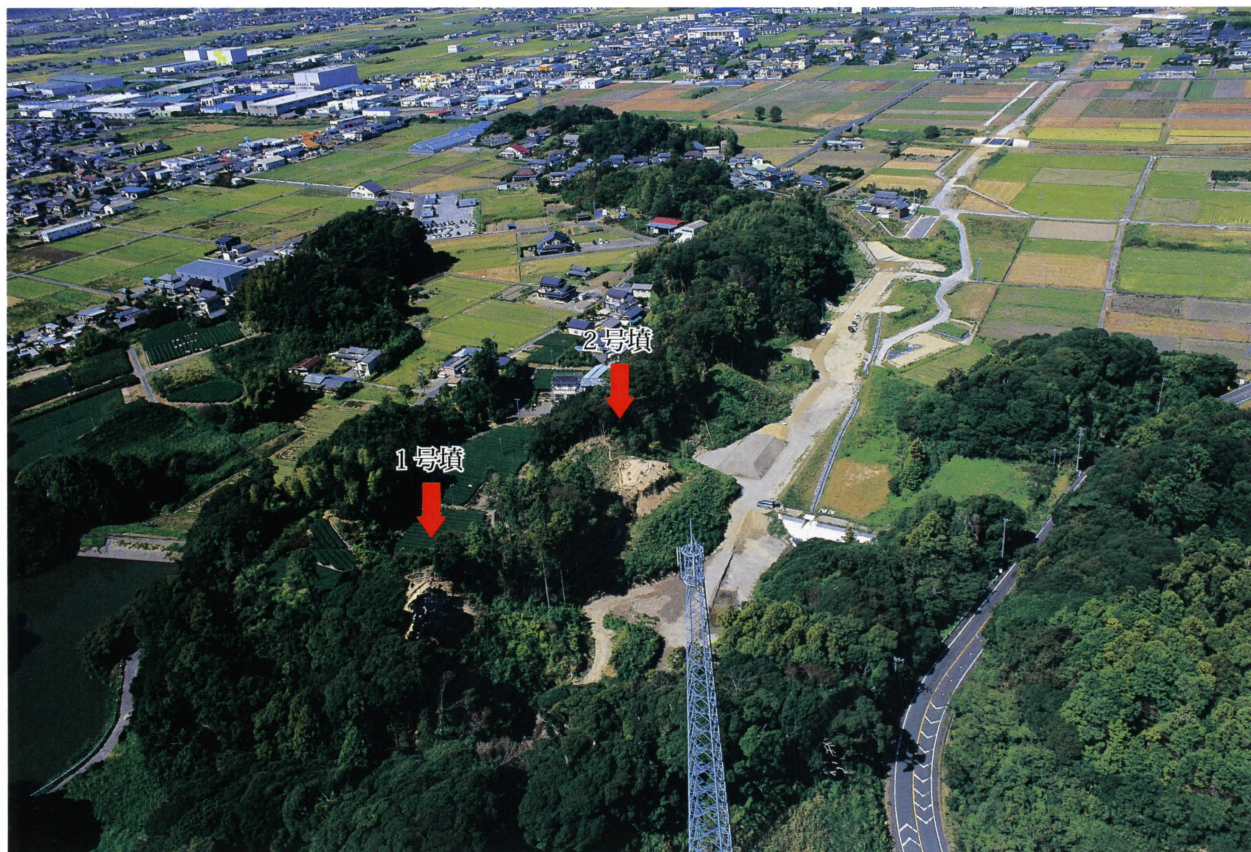
報告書抄録

ふりがな	こくぞうよこあなぐんはつつちようさほうこくしょ							
書名	虚空蔵横穴群発掘調査報告書							
副書名	(市道赤土高橋線築造工事に伴う発掘調査)							
巻次								
シリーズ名	菊川市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第15集							
編著者名	高木 淳							
編集機関	菊川市教育委員会							
所在地	〒437-1514 静岡県菊川市下平川6225 TEL 0537-73-1137							
発行年月日	2014年12月19日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	世界測地形				
こくぞうよこあなぐん 虚空蔵横穴群	しずおかけんきくがわし 静岡県菊川市 たかはしちない 高橋地内	22224	312	34度 41分 12秒	138度 6分 16秒	20130812 ～ 20131003	300㎡	市道赤土高橋 線築造
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
虚空蔵横穴群	古墳	古墳		円墳2		土師器1点		

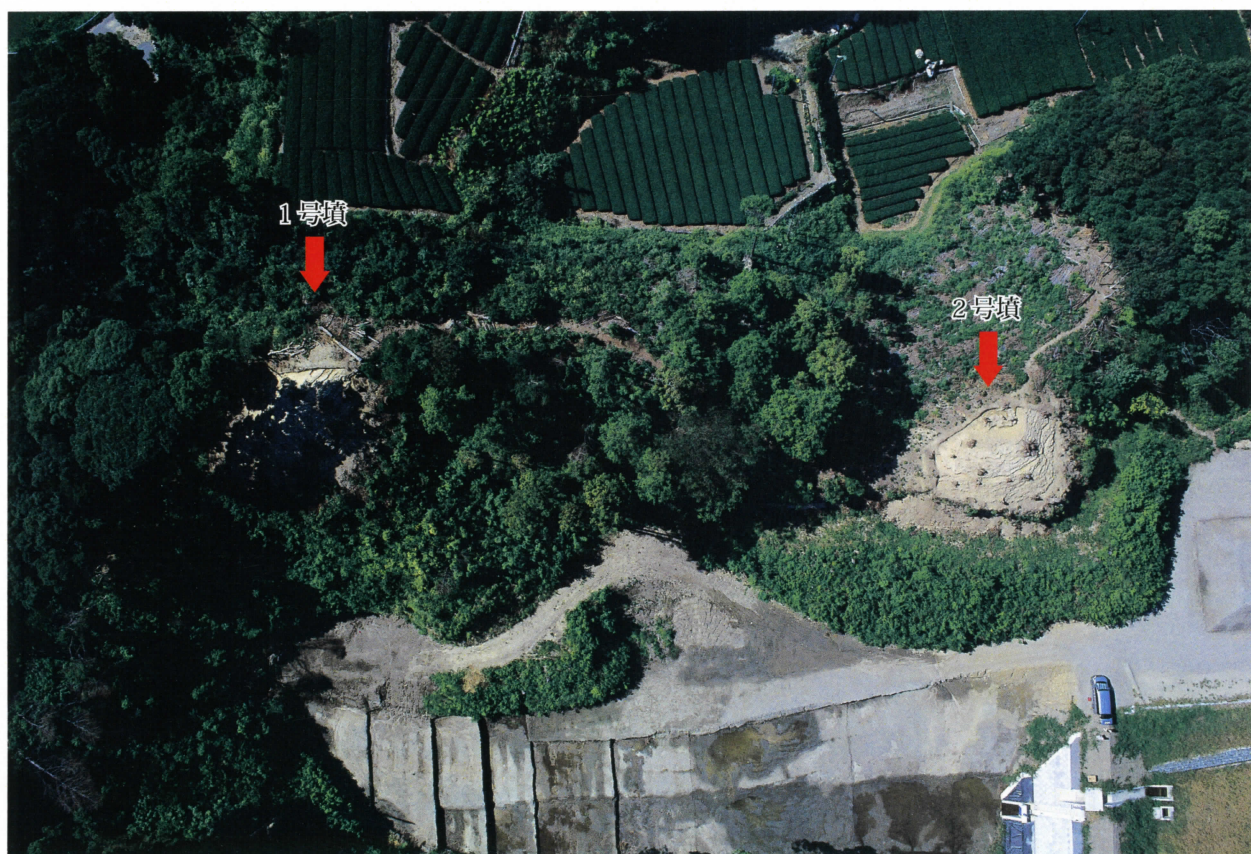
丘陵上に2基の円墳を確認し、工事の影響が及ぶ範囲を調査したが、明確な主体部や副葬品等は確認されなかった。

写真図版

写真図版 1



遺跡遠景（調査後）南から



完掘状況 上から



1号墳（調査前） 南から



1号墳（調査後） 南から

写真図版 3



1号墳 主体部状遺構 検出



1号墳 主体部状遺構 完掘



2号墳（調査前） 南から



2号墳（調査後） 南から

菊川市埋蔵文化財調査報告書第15集
虚空蔵横穴群発掘調査報告書
(市道赤土高橋線築造工事に伴う発掘調査)
平成26年度

編集・発行 静岡県菊川市下平川6225
静岡県菊川市教育委員会
TEL 0537-73-1137

印刷 株式会社 アプライズ
発行年月日 平成26年12月19日